

令和6年度 瑞穂野北小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

- (1) 基本目標：「人間尊重の教育」を基盤とし、豊かな人間性をもち、自ら学び正しい判断力と実践力を身に付けた、健康でたくましく生きる児童を育成する。
- (2) 具体目標：進んで学ぶ子・はげましあう子・たくましい子<かしこく・やさしく・たくましく>
- (3) 育みたい資質・能力：
「問題解決力」
 - ・ 課題を主体的に捉え、見通しをもって他者とかかわりながら解決していく力「表現力」
 - ・ 根拠を明確にして考えを形成し、目的や場面、相手に応じて文章や発話で適切に伝える力「チャレンジする力」
 - ・ 失敗を恐れず、未知の内容についても積極的に挑戦しようとする態度
 - ・ 困難やつまずきに対して、柔軟な発想や創意工夫で回復を図ろうとするしなやかな強さ

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- 誰もが安心感の中で主体的に学び、活力にあふれる学校づくり
- ・ 目指す学校像：「安心感の中で成長できる学校」「学ぶ楽しさを実感できる学校」「互いを認め合い高め合う学校」「地域とともにある学校」
 - ・ 目指す教師像：「児童に一人一人に向き合い、信頼される教職員」「使命感をもち、学び続ける教職員」「支え合い、連携・協働する教職員」

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 安心と成長の場となる学校をつくる
 - ・ 温かい人間関係の下、児童一人一人のよさと可能性を生かし、行きがい・居がいのある学校づくりに努める。
 - ・ いじめの未然防止や早期発見・早期対応、教育相談体制の整備、不登校への対応など、児童指導上の諸課題への対応のための組織的な支援体制を整え、支援にあたる。
- (2) 成長し続けるための基盤を培う
 - ・ 児童の資質・能力の育成に向け、ICTを効果的に活用しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりに努める。
 - ・ 困難に負けない強さと他への思いやりの心の育成に向け、認め・褒め・励ます指導により、自信や自己有用感の向上を図るとともに、道徳教育の充実を図る。
 - ・ 心身共に健康で安全な生活を送るために資質や能力の育成に向け、望ましい食習慣や運動を通して体力の向上を図るとともに、実践的な避難訓練等を通して危機回避能力の育成に努める。
- (3) 未来を生き抜く力を養う
 - ・ 1人1台端末の活用を通して、情報活用能力の育成を図るとともに、よりよい情報の使い手を目指すデジタルシティズンシップ教育を推進する。
 - ・ A L Tを活用し、英語によるやり取りを中心とした授業づくりに努め、児童のコミュニケーション能力を育成する。
 - ・ 人権、平和、環境、少子高齢化等の現代的な諸課題と向き合い、解決を図ろうとする活動を通して、持続可能な社会づくりに向けた意識の涵養に努める。
- (4) 多様な児童の状況に応じた指導・支援を行う
 - ・ 一人一人の教育的ニーズに対応するために、多様な学びの場を提供するとともに、教職員の指導力の向上を図る。
 - ・ 関係職員が情報を共有するとともに、家庭や地域、諸機関と連携し、いじめや不登校対策を強化する。
- (5) 信頼される教職員を育て、学校の組織力を高める。
 - ・ 使命感と向上心をもって自己研鑽に努めるとともに、互いに認め合い、高め合える教職員組織をつくる。
 - ・ デジタル機器を活用しながら業務の効率化を進め、児童と向き合う時間を確保し、心身ともに健康な状態で職務を遂行することができるよう、ワークライフバランスを意識した働き方を推進する。
- (6) 地域とともにある学校づくりを進める
 - 体験活動や交流活動を通して地域を愛する心を育てるとともに、社会に参画する意識と協働する態度を育てる。
 - ・ 家庭や地域と本校の目指す児童像を共有し、協働しながら健全な児童の育成に努める。

(7) 新しい時代にふさわしい教育環境を整える

- ・ よりよい教育環境を保ちながら、多様化する社会的ニーズにも配慮した学校施設で、児童をはじめ利用者が安全・快適に過ごせる教育環境の整備に努める。
- ・ 1人1台端末の活用や校務のデジタル化の推進に向けた環境整備に努める。

【瑞穂野地域学校園教育ビジョン】

9年間の連続した学びの中で、生きる力（確かな学力、健やかな体、豊かな人間性・社会性）を育てる小中一貫教育～言語能力を身に付け、他者と関わり合いながら、たくましく成長する児童・生徒の育成～

4 教育課程編成の方針

(1) 基本方針

- ・ 知・徳・体の調和のとれた児童の発達を目指すため、各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動の相互の学びの関連を図りながら、児童の実態と特性を十分配慮し、心身共に健全な育成を図れるような編成を行う。
- ・ 地域学校園教育ビジョンである「生きる力（確かな学力・健やかな体・豊かな人間性・社会性）」を育む教育課程となるよう、9年間の学びの連続性を考慮した編成を行う。
- ・ 保護者や地域住民の願いを踏まえ、本校の教育の目指すところを共有し、地域の教育力が生きる編成を行う。

(2) 留意点

- ・ 前年度の各種調査等の結果を踏まえ、知・徳・体の課題を明確にして指導の重点化を図る。
- ・ 教科横断的な視点を持ち、各教科の学習内容に関連する道徳科・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動の実施内容や時期を考慮する。
- ・ 地域の教育資源を把握し、教育活動の中に積極的に取り入れる。
- ・ 地域学校園児童生徒の課題から、今後育てていきたい力を明確にし、共通実践等を取り入れる。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

- 小規模校の特色や地域の教育資源を生かした教育活動、小中が連携した継続的な教育活動により、地域と共にある学校づくりを推進する。
- ・ 業務内容の見直しやデジタル機器を活用することで業務の効率化を図り、児童とともに過ごす時間を大切にするとともに、教職員がもてる力を有効に発揮し、協働する学校づくりに努める。
- ・ 学校課題：主体的に学習に取り組み、課題を解決していける児童の育成
～児童が課題を見付け、夢中になる理科の授業を通して～

(2) 学習指導

- ・ 児童自ら問いをもち主体的に学び合う授業の工夫

(3) 児童生徒指導

- ・ 困難に負けない強さと他者への思いやりの心をもった児童の育成

(4) 健康（保健安全・食育）・体力

- ・ 自ら考え行動し、心身共に健康で安全な生活を送ることができる児童の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※学校独自 ①今年度の学校として重点的に取り組む内容には, ★を付けている。

②黄色:学習指導関係, ピンク:児童指導・健康・安全関係, 水色:学校運営関係

第2次宇都宮市教育推進計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 85%以上 →教職員の肯定的割合 85%以上	① 授業において, めあての明確化と共有, めあてに即した振り返りの充実を意識して指導にあたる。 ② 発達の段階に応じて, 問題解決の過程において, 学習形態(個別・ペア・グループ・一斉)を工夫したり, 互いの考えを伝え合う場を設定したりする。 ③ 児童の様々な考えやよさをクラス全体に紹介するなどして, 自信をもたせる。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は88.8%, 教職員の肯定的回答率は100%で, とともに数値指標を上回った。 ・校内研修等において, 学習者側の立場に立った授業づくりについて研究を進めたことにより, 児童が主体的に学習に取り組めるようになってきた。 【次年度の方針】 ・引き続き, 児童が自分で考え課題解決を図ることができるよう, 児童の反応を想定しながら教材研究や授業展開の立案を行い, 教師自身の授業力を高める。 ・教職員による相互授業参観や日頃の授業に関する情報交換を行い, 児童の反応を生かし, 児童の意見をつないで授業を展開できるよう, 教師自身のコーディネート力を高める。
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 児童は, 思いやりの心をもっている。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 85%以上 →教職員の肯定的割合 85%以上 →地域の肯定的割合 85%以上	① 児童一人一人に愛情をもって接し, 自信や自己有用感の向上を図る。 ② 道徳教育の充実を図り, 生命及び人権を尊重する心や, 人を思いやる心を育む。 ③ 児童会活動や縦割り班活動, 地域の方々との交流等を通して, 相手の立場を考えて思いやる心を育む。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は92.8%, 教職員の肯定的回答率は89.5%, 地域住民の肯定的回答率は100%で, 全て数値指標を上回った。 ・異学年との交流や地域ボランティアの方々との交流等, 様々な人たちと関わる機会を多く設定し, 相手の立場や気持ちを考えることの大切さについて全教職員で助言・支援したことにより, 思いやりの心がより育ってきた。 【次年度の方針】 ・児童や教職員の人権感覚を磨くために, 道徳科の授業改善と, 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の更なる充実を図るとともに, 学年だより等を活用して保護者への啓発にも努める。 ・児童会活動や縦割り班活動, 地域の方々との交流等の活動を, より児童主体の活動にするよう働き掛ける。
	A 3 児童は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 85%以上 →教職員の肯定的割合 85%以上	① 各教科等の授業や各種検定等において, 児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに, 目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。 ② 児童が自分なりの目標を設定し, 活動に見通しをもって取り組むことの大切さに気付くような授業の展開を図る。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は86.4%, 教職員の肯定的回答率は100%で, とともに数値指標を上回った。 ・授業だけでなく各教育活動において, 目標を立てて取り組むことの大切さを全教職員が児童に伝えるよう心掛けたり, 目標達成に向けて努力している姿を称賛したりしたことにより, 児童の前向きな姿勢が見られるようになった。 【次年度の方針】 ・授業においては, 児童の興味や意欲を喚起・継続できるよう, 目標(めあて)の明確化や共有の仕方を工夫する。 ・引き続き, 目標達成に向けて努力している過程に目を向け, 称賛したり励ましたりするとともに, そのがんばりを保護者にも伝える機会を設ける。

1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上 ⇒保護者の肯定的割合 90%以上	① 児童が自分の健康に気を付けて自ら健康管理できるように、養護教諭と連携しながら、各教科等や学校行事と関連を図った保健指導や日常の指導を行う。 ② 児童が栄養バランスの取れた望ましい食習慣を身に付けることができるように、栄養士と連携しながら、学校給食と各教科等との関連を図った食育指導を行う。 ③ 児童に危機を予測し自らの命を守り抜く判断力と行動力を育成するため、日常における安全指導を意識するとともに、交通安全教室や避難訓練等の内容の改善・充実を図る。	B 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は88.8%、教職員の肯定的回答率は89.5%、保護者の肯定的回答率は88.7%と全て数値指標をやや下回った。 6年生を中心に、室内での過ごし方や安全な登下校について声を掛け合っている姿が見られた。 【次年度の方針】 - 児童自身がけがや病気の予防に努めることができるよう、日常における安全指導を充実させる。 - 学年だより、保健だより、学校ホームページ等を活用して保護者への啓発を行う。 - 安全な登下校の仕方について、保護者や地域ボランティアとの連携を充実させる。
1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 85%以上 ⇒教職員の肯定的割合 85%以上	① 学級活動やキャリアパスポート等を活用し、自分のよさや成長に目を向けるような機会を設ける。 ② 帰りの会等において、友達のよさを紹介する機会を設ける。 ③ 友達のため、学級のため、学校のためなど、他者のことを考えて行動している児童を教職員間で共有し、称賛の声掛け等を行う。 ④ 児童のよさや成長を見取り、「北っ子賞」を与え、自己有用感を高める。	B 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は89.6%、教職員の肯定的回答率は94.7%と、ともに数値指標を上回った。 - 教職員が児童のよさや成長の様子を口頭やメモ等で頻繁に共有して支援に生かしたり、児童同士が協力して活動する場を設けたりしたことにより、児童の自己肯定感が高まったと考えられる。 【次年度の方針】 - 本校への所属意識を高め、他者のことを考えた言動をとることができるよう、学級活動、朝の会や帰りの会、道徳の授業、学校行事等において、学級や学校など社会に貢献することの大切さを児童に伝える機会を設ける。
2ー(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 90%以上 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	① 児童が、英語を使って自分の気持ちや考えを適切に伝えることができるよう、教員自身が積極的に英語を使うようにする。 ② A L Tを活用し、英語に触れる機会の充実を図り、言語や文化について体験的に理解を深められるようにする。 ③ 外国語活動に関する校内研修を実施する。	B 【達成状況】 - 教職員の肯定的回答率は94.7%で数値指標を上回ったが、児童の肯定的回答率が78.4%と数値指標を下回った。 - 朝の放送を英語と日本語で行ったり、A L Tと英語で会話したりしている姿が見られるが、児童自身が英語を使って積極的に自分の考えを伝えようとするのが少ないのではないかと考えられる。 【次年度の方針】 - 外国語活動や外国語科の授業以外で、児童自身が英語を使う機会を設ける。
	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 85%以上	① 生活科、社会科、総合的な学習の時間、校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が郷土への愛情と誇りをもてるよう指導の充実を図る。 ② 教師自身が地域の教育資源や資料等について理解を深められるよう、校内研修等の充実を図る。	B 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は84%で、数値指標をやや下回った。 - 校外学習や出前授業等の充実を図り、宇都宮や地域の特徴等に触れる機会を多く設定したが、児童自身が実感できていなかったと考えられる。 【次年度の方針】 - 引き続き、校外学習等で宇都宮の良さに直接触れる機会を設けるとともに、教職員が意識を高めて話題に挙げるなどしながら、各教科等を関連付けて指導にあたる。

2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 85%以上 ⇒教職員の肯定的割合 85%以上 ⇒保護者の肯定的割合 85%以上	① G I G A構想に伴い、一人一台端末 を文具の一つとして、授業はもとより 日常的に活用できるようにする。 ② I C T支援員を活用したり校内 研修を行ったりすることにより、 デジタル機器の学習への活用につ いて、教職員の実践力を高める。 ③ 司書と連携しながら、授業にお ける図書利用の推進を図る。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 90.4%、教職員 の肯定的回答率は 100%で数値指標 を上回ったが、保護者の肯定的回答率 は 80.6%と数値指標を下回った。 ・校内においては、発達の段階に応じて 一人一台端末を授業や委員会等で活 用したり、図書室を積極的に利用し たりしたことにより、児童のデジタルと アナログの両方を活用する力が高ま ってきている。 【次年度の方針】 ・引き続き、授業等における I C T の効 果的な活用について、情報教育主任を 中心に教職員の研修を充実させたり、 I C T 活用について日常的に情報交 換を行ったりするよう努める。 ・保護者と連携を図り、家庭学習におけ る I C T の活用も進めていくように する。 ・タブレットの適切な扱い方について 児童に指導するとともに、保護者への 協力依頼も行う。
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社 会」について、関心をもっ ている。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 85%以上 ⇒教職員の肯定的割合 85%以上	① 各教科等の授業において、S D G s に関わる事項について触れた り紹介したりするよう努める。 ② 委員会活動において、S D G s に関わる内容を扱う。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 86.4%と数値 指標を上回ったが、教職員の肯定的回 答率は 73.7%で、数値指標を下回っ た。 ・S D G s に関する各教科等や委員会 活動における取組について、児童自身 が関心をもって取り組むことができ ている。 【次年度の方針】 ・教職員自身が S D G s に関する取組 について情報を収集し見識を深め、日 常的に S D G s と関連付けて考え、児 童に話題提供する。 ・図書室の S D G s 関連の本の充実を 図る。
3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A 10 教職員は、特別な支援 を必要とする児童の実態 に応じて、適切な支援を している。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 90%以上	○① 特別支援コーディネーターや 児童指導主任を中心に、全職員 で、特別な支援を必要とする児童 に関する共通理解を図り、一人 一人のニーズを踏まえた支援 を組織的に行う。 ○② 特別支援学級の児童はもとより、 通常学級においても、必要に 応じて個別の指導計画を作成し、 それに基づく合理的な配慮 を伴う指導に努める。 ③ 特別支援教育に関する取組の情報 を積極的に発信する。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率は 94.7%で、数 値指標を上回った。 ・特別な支援が必要な児童を含め、様子 が気になる児童についても、日常的に 全教職員で共通理解を図ったり、適宜 支援委員会等を開いて対応を検討し たりし、個に応じた具体的な支援につ なげることができた。また、特別支援 教育の視点をもった児童への関わり方 についての研修を行ったことにより、 教職員の意識が高まった。 【次年度の方針】 ・引き続き、全教職員が連携して児童一 人一人を見取り、迅速かつ組織的な対 応を行う。 ・児童一人一人のよさを伸ばすために、 それぞれの特性を把握し、保護者と連 携しながら、実態やニーズに応じた指 導・支援を行う。 ・学年だよりや特別支援教育だより等 を活用し、保護者への啓発に努める。

3-(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 90%以上 →保護者の肯定的割合 85%以上	○① 学級活動や道徳科の授業や、児童会の「いじめゼロ集会」の実施など、教育活動全体を通していじめを許さない指導の徹底に努める。 ○② 年4回実施する学校生活アンケートや、年2回行う教育相談（おしゃべりタイム）を通して、児童の心の様子を捉え、学校いじめ防止基本方針に基づきながら組織的な対応を行い、早期発見、早期対応を図る。 ③ ホームページや学校だより、学年だより等で、学校の取組の様子を発信する。	B 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は92%と数値指標を上回ったが、保護者の肯定的回答率は70.4%と数値指標を下回った。 - 児童の様子や小さな変化を捉え情報を共有して児童に声掛けをしたり、いじめ防止についての研修を行って複数による迅速なトラブル対応に努めたりしてきたことが、児童のいじめに対する意識を高めたと考えられるが、保護者との連携においてやや課題が見られた。 【次年度の方針】 - 引き続き教職員全員で児童一人一人を見取って情報を共有し指導・支援に生かす。 - 研修等をととして教職員自身の人権意識の向上を図り、適切な言葉遣いで児童に接する。 - 児童同士のトラブルについては、客観的な事実を把握するとともに、保護者への連絡や説明、協力依頼を丁寧に行う。 - 学年だよりや学校ホームページを活用して、いじめ防止や人権に関する情報を積極的に発信する。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 90%以上 →保護者の肯定的割合 85%以上	① 児童の自己肯定感を高めるよう、児童が互いに認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導・支援を積極的に行う。 ② 教育相談、学校生活アンケート、Q-U調査の結果を活用し、不適応傾向にある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向の児童に係る校内全体の情報の共有を図り、組織的に対応する。 ③ ホームページや学校だより、学年だより等で、学校の取組の様子を発信する。	B 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は88.8%、保護者の肯定的回答率は78%で、ともに数値指標を下回った。 - 今年度、長期欠席や欠席数の多い児童が数名見られた。担任を中心に、学校や友達とのつながりを保つよう、連絡や家庭訪問等を行っている。 【次年度の方針】 - 担任は、児童と積極的に触れ合い、一人一人を温かい気持ちで認め、褒め、励まし、「居がい」のある学級づくりに努める。 - 児童が互いに認め合い、切磋琢磨しながら成長していくことができるよう、児童同士をつなぐような働きかけや場の設定を行う。 - 長期欠席の児童には、引き続き保護者との連携を図りながら、自立に向けての支援を組織的に行う。
3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実 3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 85%以上 →教職員の肯定的割合 85%以上 →保護者の肯定的割合 85%以上	① 目標に向かって主体的に取り組めるように、具体的な方策を考え、学び合う活動を通して、集団の中での自己有用感を味わわせるとともに、一人一人の頑張りを見取り認め励ますことにより、学びに向かう集団づくりに努める。 ② 児童の願いや思いを生かした学校行事を計画したり、縦割り班活動の場を設定したりして、児童が意欲的に参加できるようにする。	A 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は92.8%、教職員の肯定的回答率は100%と数値指標を上回ったが、保護者の肯定的回答率は77.2%と数値指標を下回った。 - 授業や委員会活動、縦割り班活動、行事等において、児童が自分たちで考えて行動できるような機会を設けて支援したり励ましたりしたことにより、児童の生き生きとした活動につながった。 【次年度の方針】 - 引き続き、全教職員で児童一人一人に温かく接するとともに、日頃から情報を共有して指導・支援に生かす。 - 担任は、児童と積極的に触れ合い、認め、褒め、励まし、児童の願いや想いを生かした「居がい」のある学級づくりに努める。 - 授業参観や学級懇談会、学年だより等を活用し、児童のがんばりやよさを保護者に伝え、担任と保護者との関係性を構築して共に手を携えながら児童の指導・支援にあたる。

4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上	★A14 教職員は、分かる授 業や児童にきめ細かな指 導を行い、学力向上を図 っている。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 85%以上 →保護者の肯定的割合 85%以上	① 学習課題や解決への見通しをも たせ、課題解決にじっくり取り組め るよう、発問や学習課題を工夫す る。また、授業の終末には、身に付 けた内容を整理し本時の学びを振 り返ることができる時間を設ける。 ② 担任とかがやきルームや学力向 上担当者との連携を図り、一人一 人に対応した指導に努める。 ③ 日々の授業や習熟度別での学 習、かがやきルーム、チャレンジタ イムの様子等を、学年だよりやホ ームページで公開して、積極的に 発信する。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は93.6%、保護者 の肯定的回答率は87.7%で、ともに 数値指標を上回った。 ・児童自身が考え課題解決を図ること ができるよう授業づくりの校内研修 を充実させたり、担任とかがやきル ーム担当者が連携を図って対応した りしたことにより、児童一人一人の力 を伸ばす指導・支援を行うことがで きた。 【次年度の方針】 ・引き続き、児童一人一人の様子を客観 的に見取って個に応じた指導・支援に 努めるとともに、必要に応じて保護者 との連携を図りながら個別支援を行 う。 ・教科等横断的な視点や単元全体の見 通しをもって学習者主体の授業づく りを行い、授業の質の向上を図る。 ・児童が思考錯誤しながら課題解決に 向かい、「できた」「分かった」と感じ られるような授業にするために、目的 に応じてペアやグループ、一斉学習等 学び合いの場を工夫するとともに、自 身の学びを振り返る機会を設ける。
4- (2) チーム力の 向上	★A15 学校に関わる職員全 員がチームとなり、協力 して業務に取り組んでい る。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 82%以上	① 児童への関わりや、学校の諸課題 への対応、学校行事の準備・運営等 に、全職員が一丸となって取り組む。 ② 教職員の自己研鑽と教職員同士の 協働性を高めることに視点を置き、 それぞれの得意分野や持ち味が 生きる組織運営を行う。 ③ 困難を感じる業務について気軽に 相談し、助け合える雰囲気を醸 成する。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率は94.7%で、数 値指標を上回った。 ・校長のリーダーシップの下、児童や保 護者への関わり、授業づくり、学校行 事の運営等に、全教職員が互いに声 を掛け合いながら協力して取り組むこ とができた。 【次年度の方針】 ・目的意識と相手意識、謙虚さと感謝の 気持ちをもって業務に当たる。
4- (3) 学校におけ る働き方改 革の推進	A16 勤務時間を意識して、 業務の効率化に取り組ん でいる。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 82%以上	① 児童と関わる時間や校務分掌の 時間の確保、教材研究・自己研鑽の 充実を図るため、学校の働き方改 革の視点に立って、教職員一人一 人が勤務時間を意識し、業務の効 率的な実施や計画的な処理に努める。 ② 持続可能な学校運営を目指し、目 的を明確にした上で、各種行事等の 実施計画等の改善・精選を図る。 ③ 学習情報システムをはじめとし た各種システムを効果的に活用 し、業務の効率化を図る。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率は84.2%で、数 値指標を上回った。 ・スタッフがそろわない環境下であっ たが、教職員それぞれが担当する校務 分掌について迅速かつ計画的に業務 を進めるとともに、情報交換しながら 複数で対応するよう努めることがで きた。 【次年度の方針】 ・各校務分掌の業務量や繁忙期を全教 職員が把握し、協力し合って業務を遂 行できるような学校経営を行う。
5- (1) 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実	A17 学校は、「小中一貫教 育・地域学校園」の取組を 行っている。 【数値指標】 →5・6年児童の肯定的割合 85%以上	① 「瑞穂野地域学校園ビジョン」に 基づき、「生きる力（確かな学力、 健やかな体、豊かな人間性・社会 性）を育てる取組を重点とし、小中 間で積極的に情報交換を行いなが ら、小中一貫教育を推進する。 ○② 乗り入れ授業や6年生の進学 先中学校訪問等を、目的を明確 にした上で工夫して実施する。 ③ 小中共通のあいさつ運動週間を 設定するなど、間接的な交流も含 めた小中共同の取組を工夫する。	B 【達成状況】 ・5・6年児童の肯定的回答率は78.9% で、数値指標を下回った。 ・小中一貫の取組として、乗り入れ授 業、あいさつ運動、統一お弁当の日、 進学先中学校訪問等を実施したが、児 童がそれらを小中一貫の取組である ことが理解できていないのではない かと考えられる。 【次年度の方針】 ・小中一貫の目的や活動について、特に 5年生の児童には分かりやすく伝え るとともに、学年だよりや学校ホーム ページ等を活用して保護者や地域へ の発信にも努める。

5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 ⇒保護者の肯定的割合 85%以上 ⇒地域の肯定的割合 85%以上	○① 地域のボランティアの方々と の交流の機会を設定し、体験を通して望ましい人間関係を構築できるようにする。 ② 校外での活動時の安全確保や、授業における支援など、様々な活動において学校支援ボランティアを活用したり、保護者に協力を呼び掛けたりする。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答率は89.3%、地域住民の肯定的回答率は100%で、ともに数値指標を上回った。 ・親子健康教室、親子防災教室、親子給食、地域の方との給食会食、学校支援ボランティアによる学習支援、地域ボランティアや保護者の協力による環境整備（クリーン作戦・清掃強化日）等を実施したことにより、保護者や地域の方々が来校して子供たちと触れ合う機会が充実してきたと考えられる。 【次年度の方針】 ・保護者や地域と連携を図って教育活動を行えるよう、引き続き来校機会の充実や情報の発信を工夫するとともに、地域の人材の確保や開拓に努める。
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 82%以上 ⇒保護者の肯定的割合 85%以上 ⇒地域の肯定的割合 85%以上	① 毎月、チェック項目に基づく安全点検を全教職員で実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事・地震・竜巻・洪水・不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率100%、保護者の肯定的回答率は86.2%、地域住民の肯定的回答率は94.4%で、全て数値指標を上回った。 ・全教職員による毎月の安全点検と日頃の巡視、業者による施設・遊具点検等を実施するとともに、危険箇所等の児童へのアナウンス等も行ったことで、安全確保ができた。軽微な修繕等は職員で対応したが、施設の老朽化等に伴う修繕箇所については、市教委に修繕依頼を行った。 【次年度の方針】 ・引き続き、全教職員が日々の安全確認を行うとともに、児童・教職員・保護者が不測の事態に対応できるよう実践的な避難訓練を行う。 ・施設等の修繕について、市教委に依頼し続ける。
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的割合 82%以上	① 情報教育主任を中心として、授業等における積極的なタブレットの活用を図る。 ② ICT支援員を活用して環境整備を行うとともに、積極的・計画的に授業支援を依頼する。 ③ ICT使用上の留意点や危機対応について、校内研修等を行う。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率は94.7%で、数値指標を上回った。 ・教職員同士が、ICTの有効な使い方等について情報交換しながら活用することができた。 【次年度の方針】 ・教職員のICT活用のスキル向上を目指し、情報教育主任を中心に校内研修等の充実を図るとともに、授業におけるICT支援員の積極的な活用を行う。

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等（市共通）	★B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 85%以上 →保護者の肯定的割合 85%以上 →地域の肯定的割合 85%以上	○① 地域学校園内で情報を共有しながら、全校体制で「あいさつ運動」を実施し、気持ちのよいあいさつに対する意識を高める。 ○② 自ら進んであいさつすることや、時と場にふさわしい言葉遣いについて、教職員が適宜声掛けや指導を行うとともに、家庭にも協力を依頼する。	B 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 92%、地域住民の肯定的回答率は 100%で数値指標を上回ったが、保護者の肯定的回答率は 81.8%と数値指標を下回った。また、児童と保護者の数値に 10 ポイント以上の乖離が見られる。 - 小中連携あいさつ運動や校内あいさつ週間の実施により、あいさつについて意識する児童は増えたが、来校者等に自分から進んであいさつすることに課題があると考えられる。 【次年度の方針】 - 児童も大人も気持ちのよいあいさつや言葉遣いができるよう、日頃の声掛けや指導を行う。 - 教職員が来校者に気持ちのよいあいさつを行い、児童の手本となる。 - 学級懇談会等を活用し、登下校時等に知っている地域の方々に会ったらあいさつをするよう、家庭でも話題にしてもらう。
	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 85%以上 →保護者の肯定的割合 85%以上 →地域の肯定的割合 85%以上	① 「瑞北小の一日」を基に、きまりやマナーの意味や大切さについて、全職員が同歩調で指導にあたる。 ○② きまりやマナーを守って行動している姿を、児童が相互に認め合う場や教職員が称賛する機会を数多く設け、意識付けを図る。	A 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 92%、保護者の肯定的回答率は 85.9%、地域住民の肯定的回答率は 100%で、全て数値指標を上回った。 - 全教職員が児童の様子を共有し、学校生活や家庭生活の基本的な生活習慣について声掛けや支援を行ったことが、児童の意識の高まりにつながったと考えられる。 【次年度の方針】 - 適切な言葉遣いや表現の仕方について、言い換えをして手本を示すなど、全教職員で統一感をもって指導にあたる。 - 公共のきまりやマナーを守って行動できるよう、機を捉えて児童自身に考えさせる機会を与えるとともに、保護者への発信と協力依頼も行う。
本校の特色・課題等	B3 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 85%以上	① 体育科の授業や特別活動等を通して、様々な種類の運動の面白さを味わい、日常生活の中でも取り組めるように、指導方法を工夫する。 ② 児童が使える道具の置き場や借り方を明確にするなど環境を整備し、自主的な運動を促す。	B 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率 77.6%で、数値指標を下回った。 - 体育の授業や体育委員会主催のイベント、運動会等には全力で取り組む児童が多かったが、業間や昼休みに外遊びをする児童は固定化していたように見受けられた。 【次年度の方針】 - 引き続き、児童の運動の機会を確保するため、業間や昼休みの外遊びを推奨する。 - 体育の授業で、体を動かす時間を十分に確保するとともに、スポーツの楽しさや爽快感を味わわせる。 - 児童がゆとりをもって過ごせる日課を設定する。

★B4 学校は、児童同士が協働する活動の場を設定している。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 85%以上 →保護者の肯定的割合 85%以上	① 縦割り班活動や異学年交流の場を設定し、望ましい人間関係の育成を図る。 ② 縦割り班活動や異学年交流の際、内容や安全面等について児童が自分たちで考えて活動できるよう支援する。	B 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は92.8%、保護者の肯定的回答率は93.5%で、ともに数値指標を上回った。 - 異学年交流として、縦割り班活動（清掃、交流、給食、読み聞かせ等）の充実や体育や音楽の合同授業を行ったことにより、児童のコミュニケーション力が向上してきた。 【次年度の方針】 - 児童自身が縦割り班活動や異学年交流の内容を考える場を設定し、相手や集団のことを考えて行動することができるよう、見守ったり支援したりする。 - 上学年の児童が、集団においてよりリーダーシップを発揮することができるよう、意識付けを図る。
★B5 児童は、失敗を恐れずに様々なことに挑戦している。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 85%以上 →教職員の肯定的割合 85%以上	① 児童が夢中になるような遊びや活動を取り入れ、様々なことに挑戦しようとする場をつくる。 ② 児童が様々なことに挑戦することができるような機会を与え、様子を見守り、適宜助言したり励ましたりする。 ③ 各種たよりや懇談等を通して、学校の取組の様子を発信したり、保護者に協力を依頼したりする。	B 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は85.6%で数値指標を上回ったが、教職員の肯定的回答率は84.2%と数値指標をやや下回った。 - 教職員は児童の考えや思いを尊重し、活動を見守り、必要に応じて助言する姿勢で関わるよう心掛けたため、児童自らが考え挑戦する機会が増えた。 【次年度の方針】 - 授業を含めた日常の学校生活において、児童が自ら考え、楽しみながらチャレンジできる場を設定する。 - 児童のチャレンジや努力の過程を教職員で共有し励ましの声掛けを行うとともに、保護者にも伝える。
★B6 児童が自分で課題を見つけ、試行錯誤しながら課題に取り組み、主体的に解決している。 【数値指標】 →児童の肯定的割合 85%以上 →教職員の肯定的割合 85%以上	① 児童が様々な見方・考え方を働かせて課題解決に向かって学習に取り組むことができるような授業を構築する。	A 【達成状況】 - 教職員の肯定的回答率は94.7%で数値指標を上回ったが、児童の肯定的回答率は84.8%と数値指標をやや下回った。 - 校内研修等において、児童の疑問や気付きを生かす授業について全教職員で考えたことで、学習者主体の授業展開を意識することができるようになった。 【次年度の方針】 - 引き続き、児童が自分で考え課題解決を図ることができるよう、児童の反応を想定しながら教材研究や授業展開の立案を行い、教師自身の授業力を高める。 - 教職員による相互授業参観や日頃の授業に関する情報交換を行い、児童の反応を生かし、児童の意見をつないで授業を展開できるよう、教師自身のコーディネート力を高める。 - 教師自身が、児童と共に創る授業を楽しむ。

【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【教育全体の状況について】

- ・全26項目中、13項目について数値指標を達成できた。
 - ・児童に関することで特に良好な評価が得られている項目は、A1「児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる」、A2「児童は、思いやりの心をもっている」、A5「児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている」、B2「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている」であった。
 - ・学校全体に関することで特に良好な結果が得られている項目は、A14「教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている」、A19「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」、A20「コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている」であった。
 - ・教職員による教職員自身に関することで特に良好な評価が得られている項目は、A14「教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている」、A15「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」であった。
- 家庭や地域との連携に関する項目（A18）については、保護者の肯定的回答率が89.3%、地域住民の肯定的回答率が100%と、ともに数値指標を上回った。この項目については、児童の肯定的回答率が89.6%、教職員の肯定的回答率が100%と、ともに良好な結果となった。

- ・今年度の「本校として育みたい資質・能力との関連」で重点とした6項目のうち、A14「教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている」、A15「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」、B4「児童は、他の学年の友達のことを考えたり協力したりしながら、様々な活動に取り組んでいる」の3項目について数値指標を上回った。

【評価の乖離が見られた項目について】

- ・A6「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている」の項目では、教職員の肯定的回答率が指標を上回っているものの、児童の肯定的回答率がマイナス11.6ポイントとなり、大きな差が見られた。
 - ・A9「児童は、『持続可能な社会』について、関心をもっている」の項目では、児童の肯定的回答率が指標を上回っているものの、教職員の肯定的回答率は数値指標からマイナス11.3ポイントとなり、大きな差が見られた。
 - ・A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している」の項目では、児童、教職員、地域住民の肯定的回答率がどれも92%を超えたが、保護者の肯定的回答率が数値指標からマイナス14.6ポイントとなり、大きな差が見られた。
 - ・A13「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」の項目では、児童、保護者、地域住民の肯定的回答率がどれも92%を超えたが、保護者の肯定的回答率が数値指標からマイナス7.8ポイントとなり、大きな差が見られた。
- A21「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」の項目では、児童の肯定的回答率は数値指標を7ポイント上回り、地域住民の肯定的回答率も数値指標を15ポイント上回ったが、保護者の肯定的回答率は数値指標からマイナス3.2ポイントとなり、大きな差が見られた。

【指標を下回った項目について】

- ・A4「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」の項目では、肯定的回答率を数値指標と比較すると、児童がマイナス1.2ポイント、教職員がマイナス0.5ポイント、保護者がマイナス2.3ポイントであった。
- ・A8「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している」の項目では、児童と教職員の肯定的回答率が数値指標を上回ったものの、保護者の肯定的回答率が数値指標からマイナス4.4ポイントとなった。
- ・A13「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている」の項目の肯定的回答率を数値指標と比較すると、児童がマイナス1.2ポイント、保護者がマイナス7ポイントであった。
- ・A17「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」の項目では、5・6年児童の肯定的回答率が数値指標からマイナス6.1ポイントであった。
- ・B3「児童は、休み時間や放課後などに、積極的に運動している」の項目では、児童の肯定的回答率が数値指標からマイナス7.4ポイントであった。
- ・今年度の「本校として育みたい資質・能力との関連」で重点とした6項目のうち、B5「児童は、初めてのことや苦手なことにも、失敗を恐れずに挑戦している」では、児童の肯定的回答率が数値指標を上回ったものの、教職員がマイナス0.8ポイントとなった。また、B6「児童は、自分で課題を見つけ、試行錯誤しながら課題に取り組み、主体的に解決している」では、教職員の肯定的回答率が数値指標を上回ったものの、児童がマイナス0.2ポイントとなった。

7 学校関係者評価

- 学習支援ボランティアの活動が予定通り実施できたことと、新たなボランティア登録者があったことなどから、地域の方々が子供たちと関わる機会が多くあり、子供たちの心身の成長につながったと思われる。今後も、ボランティア活動の活性化と、積極的なボランティア募集を行えるとよい。
- 保護者の方々にも、環境整備のボランティアに参加してもらえるよう呼び掛けていくとよい。
- 学校、家庭、地域において、気持ちのよいあいさつができるとよい。あいさつについては、家庭での保護者の関わりが大切になってくることから、家庭への啓発について工夫していけるとよい。
 - ・授業参観をした際、子供たちが前向きに学習に取り組んでいる様子が見られた。外国語の授業やＩＣＴを活用した授業も参観でき、子供たちの多様な学びの姿も見られた。また、先生方が子供たちの実態に合わせて指導・支援したり、教材を工夫したりするなど、努力していることが分かった。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・児童の肯定的回答率で見ると、概ね良好な評価を得た項目が多い。特に、思いやりや協力についての意識が高く、多くの人との交流の場を設けたことの効果が感じられる。また、今年度「本校として育みたい資質・能力との関連」で重点とした項目については、児童が自ら考えて挑戦したり解決したりできるような力を伸ばすために、昨年度から継続して教職員が児童の考えや思いを尊重して見守り、励まし、助言する姿勢で児童に関わってきたことが少しずつ実を結んできたものと思われる。引き続き、全教職員一丸となって、児童の「表現力」、「問題解決力」、「チャレンジする力」を伸ばす指導・支援を行うとともに、学習者主体の授業への転換を図る。
 - ・いじめ防止を含め、児童や教職員の人権意識を高めるために、道徳科の授業の充実や、教職員自身の人権感覚を磨く研修等の充実を図る。また担任は、児童一人一人を温かく認め励まし、「居がいい」のある学級経営を行う。
 - ・あいさつの励行やきまりを守った生活については、全教職員で根気強く児童に働きかけるとともに、教職員自身が手本を示すようにする。また、保護者への発信にも努める。
- 保護者の回答では、児童の肯定的回答率と大きな差が見られる項目が複数見られた。いじめ防止対策や不登校を生まない一人一人を大切にした学級経営等に関して、学級懇談会や個人懇談、学年だよりを活用したり、電話での連絡や家庭訪問等を行ったりすることをおして担任の思いや取組について心を込めて保護者に伝えたとともに、児童や保護者の声に謙虚に耳を傾け、保護者と手を携えながら児童の指導・支援にあたるようにする。
- 保護者や地域の方々が協力的である強みを生かし、今後も地域の力（ボランティアを含む）のさらなる活用を図りながら、学校・家庭・地域が協働して児童の心身の健全育成に努める。
- 小中一貫教育の取組として行っている乗り入れ授業や中学校訪問、小中連携あいさつ運動などについて、児童や保護者、地域の方々に伝える機会を設ける。
- ・保護者や地域の方々により学校での児童の様子や学校の取組を知ってもらうために、各種たよりや学校ホームページで情報を発信するよう努める。その際、内容の充実も図る。